

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅰ			指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	講師紹介1-1これからどう生きるのか(宿題として視聴)		
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り1-2一生でどのくらい稼げるのか		
	3	就職活動での身だしなみ	5-1～5-1(実践編)身だしなみ		
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い		
	5	職業を知る	2-2職種と業種の違いが分かるように*志望動機は飛ばします		
	6	情報収集、企業研究、資料請求1	2-2(実践編)業界マップの理解		
	7	情報収集、企業研究、資料請求2	2-3業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	8	情報収集、企業研究、資料請求3	2-3(実践編)業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	9	自分自身を知る自分史の作成1	3-4から3-6-2・3-4自己PRのネタを探す		
	10	自分自身を知る自分史の作成2	3-4から3-6-2・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)		
	11	自分自身を知る自分史の作成3	3-4から3-6-2・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)		
	12	自分自身を知る自分史の作成4	3-4から3-6-2・3-5自己PRの骨格を作る		
	13	自分自身を知る自分史の作成5	3-4から3-6-2・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)		
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須時間があれば一般常識など		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I			指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	志望動機の作り方1	3-7業界、会社にあった動機作り		
	16	志望動機の作り方2	3-7(実践編)業界、会社にあった動機作り		
	17	制作書類1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	18	制作書類2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	19	制作書類3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	20	制作書類4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	21	企業訪問	5-1,5-2		
	22	就職試験のマナー1	5-2~5-3(実践編)入退室		
	23	就職試験のマナー2	5-2~5-3(実践編)面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー3	5-2~5-3(実践編)面接試験対策2		
	25	筆記試験対策1	5-5,5-5(実践編)筆記試験について、種類や方法を知る		
	26	筆記試験対策2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	27	筆記試験対策3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	28	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
	14	期末試験	期末試験		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅠ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅰ		指導担当者名	薄 崇 雄		
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事				
開講時期	通 年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間	
学習到達目標	(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習 (後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)					
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞□					
学 期	ターム	項 目		内 容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	オリエンテーション		どうしてこの学科を選んだかの質問		
	2	音響技術者の違い		レジュメ		
	3	検定試験の概要		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	4	バイノーラルとステレオフォニック		楽器音再生		
	5	オーケストラ楽器のヒアリング		楽器音再生		
	6	学科試験問題演習、ヒアリング演習		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、楽器音再生		
	7	学科試験問題演習、ヒアリング演習		〃		
	8	学科試験問題演習、ヒアリング演習		〃		
	9	学科試験問題演習、ヒアリング演習		〃		
	10	前期試験				
	11	3級受験直前学科演習		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	12	3級受験判断等試験(ヒアリング)直前演習		楽器音再生、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	13	本試験				
	14	試験結果答え合わせ				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅰ		指導担当者名	薄 崇 雄		
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事				
開講時期	通 年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間	
学習到達目標	(前期) 音響の仕事を理解する。プロが使う音に慣れるオーケストラ等の大編成の音に親しむ人間の聴覚を理解する 3級舞台機構調整学科受験対策、演習 (後期) 人間の聴覚と音響機器から出る音の融合を図る					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	テキスト：舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)					
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画鑑賞、クラシックコンサート等生音のライブ鑑賞□					
学 期	ターム	項 目		内 容・準 備 資 料 等		
授 業 計 画 後 期	15	ミキシングエンジニアの役割		レジュメ		
	16	安全について、非常放送・火災警報器		事務室火災警報器、非常放送見学、舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	17	音量、音質について		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	18	楽器の発音構造		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	19	人間の声の特性		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	20	ホールの構造		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	21	EQについて		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	22	エフェクターについて(リバーブ)		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	23	エフェクターについて(コンプレッサー)		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	24	後期試験				
	25	ステレオ録音		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	26	圧縮～リニア～ハイレゾと音響心理		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、音及び音楽再生		
	27	期末試験				
	28	テスト答え合わせ				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論Ⅰ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間
学習到達目標	(前期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析” (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析”				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集				
授業外学習の方法	実際にもスタジオでの機材を目で見ても手で触って確認をする。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	レコーディングを中心とした技術の理解と実際。		
	2	音の性質	音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ		
	3	音響物理基礎1	音と音波		
	4	音響物理基礎2	音に関する物理量		
	5	音響物理基礎3	音の尺度		
	6	電気音響基礎1	電気基礎		
	7	電気音響基礎2	基本回路		
	8	電気音響基礎3	オーディオ回路		
	9	音響機器1	マイクの種類と作動原理		
	10	音響機器2	コンソールの種類と機能		
	11	音響機器3	記憶媒体の歴史		
	12	模擬試験1	採点后フィードバック		
	13	期末試験			
	14	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論 I			指導担当者名	常勤	
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間	
学習到達目標	(前期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析” (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析”					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集					
授業外学習の方法	実際にもスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	録音技術1		マイク収音:方法と種類		
	16	録音技術2		オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際		
	17	録音技術3		リズムトラックのレコーディング		
	18	録音技術4		マルチ録音とトラックダウン／ミキシングダウン		
	19	次世代音響技術1		デジタル音響処理基礎		
	20	次世代音響技術2		デジタルによるマルチ再生		
	21	次世代音響技術3		スピーカーの設置		
	22	レジュメ提出		今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成		
	23	次世代音響技術4		サラウンド技術の理解と実際		
	24	音楽理論と楽器1		基本的な楽器に対する理解		
	25	音楽理論と楽器2		クラシック楽器		
	26	音楽理論と楽器3		ポップス用の楽器		
	27	期末試験				
28	振り返り					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習 I		指導担当者名	安藤圭太		
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ProTools					
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	面談				
	2	マイクの種類		ダイナミックマイクの使い方を知る		
	3	マイクの種類		コンデンサーマイクの使い方を知る		
	4	ドラム録音		マイキングを知る		
	5	ドラム録音		音の加工仕方を身に付ける		
	6	ギターベース録音		マイキングを知る		
	7	ギターベース録音		音の加工仕方を身に付ける		
	8	カホン録音		マイキングを知る		
	9	カホン録音		音の加工仕方を身に付ける		
	10	ピアノ録音		マイキングを知る		
	11	ピアノ録音		音の加工仕方を身に付ける		
	12	テスト対策		前期の復習		
	13	前期期末試験		録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価		
	14	試験内容をみんなとヒヤリング				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅰ			指導担当者名	安藤圭太
実務経験	有	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点: 優)、B(70点~79点: 良)、C(60点~69点: 可)、D(0点~59点: 不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ProTools				
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期の振替			
	16	カラオケにボーカル録音1		ボーカルの録音の仕方をしる	
	17	カラオケにボーカル録音2		ボーカルの音色調整とコンプをかけてみる	
	18	ピアノにボーカル録音1		ピアノの録音の仕方をしる	
	19	ピアノにボーカル録音2		ピアノの音色調整とコンプをかけてみる	
	20	3ピースバンド録音の企画立案		曲目決め、スケジュール調整	
	21	3ピースバンド録音1		ドラム録音	
	22	3ピースバンド録音2		ベース録音	
	23	3ピースバンド録音3		ギター録音	
	24	仮ミックス		ミキシングの仕方をしる	
	25	ボーカル録音		バンドボーカルの録音の仕方をしる	
	26	全体ミックス		バンドミックスの仕方をしる	
	27	前期期末試験		録音段取りをテストする	
28	仕上げ作品リスニング				
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄崇雄	
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義:		演習:		実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整製作等作業試験受験準備 舞台機構調整判断等試験受験準備 舞台機構調整製作等作業試験受験 舞台機構調整判断等試験受験				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源				
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画前期	1	プロの音に慣れる		モニタースピーカー、CD	
	2	ミキシングコンソールの構造		分解用アナログ調整卓	
	3	ケーブル・コネクター、スタンドの種類		該当ケーブル、コネクター	
	4	ミキサーの操作		アナログ、デジタル調整卓	
	5	製作等作業試験の実習(問題読み合わせ)		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	6	製作等作業試験の実習		マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	7	製作等作業試験の実習		マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	8	判断等試験、製作等作業試験の実習		モニタースピーカー、CD	
	9	判断等試験、製作等作業試験の実習		モニタースピーカー、CD	
	10	ヒアリング試験		モニタースピーカー、CD	
	11	ヒヤリングのフィードバック			
	12	ヒヤリングのフィードバック			
	13	本試験		モニタースピーカー、CD、マイク、マイクケーブル、スタンド、PAシステム	
	14	前期の振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄崇雄		
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に5年以上従事				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整製作等作業試験受験準備 舞台機構調整判断等試験受験準備 舞台機構調整製作等作業試験受験 舞台機構調整判断等試験受験					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	テキスト：舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、検定用音響機材、楽器音等の音源					
授業外学習の方法	マイクケーブル、マイクスタンド等の音響機材の扱いに慣れる。オーケストラ等大編成のTV音楽番組を観賞する。					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業計画 後期	15	編集ソフトの操作、構成台本製作	PC			
	16	台本製作、素材加工	PC			
	17	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式			
	18	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式			
	19	ナレーション、SE、音楽のミキシング(実機)	台本、再生機材一式			
	20	編集ソフトへの音源入れ込み	台本、PC、再生機材一式			
	21	ナレーション、SE、音楽のミキシング(PC)	台本、PC、再生機材一式			
	22	PCソフト編集(個人)	PC、再生機材一式			
	23	ソフト編集物のチェック1	PC、再生機材一式			
	24	ソフト編集物のチェック2	PCPCソフト編集、マスタリング、CD製作			
	25	PCソフト編集、マスタリング、CD製作1	提出の企画にあわせての音源制作			
	26	PCソフト編集、マスタリング、CD製作2	提出の企画にあわせての音源制作			
	27	期末試験	CD再生機材一式			
28	振り返り	評価シート提出				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	作曲実習 I		指導担当者名	今泉尊州
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	楽器音響機材照明機材			
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画前期	1	作曲	曲を作ることは	
	2	1' 30"	ワンコーラスの曲を作る	
	3	リズム隊	リズム隊の重要性と有用性	
	4	コード	コードの進行の効果	
	5	ベース	ベースの重要性	
	6	メロディ	メロディの音楽理論	
	7	機材	音響卓の構造	
	8	機材	音の流れ	
	9	機材	AUX	
	10	機材	スピーカーの構造	
	11	機材	アンプ	
	12	機材	インピーダンスの理解と実際の応用	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	作曲実習 I		指導担当者名	今泉尊州
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	楽器音響機材照明機材			
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	照明機材	照明機材の結線方法	
	16	照明機材	DMX	
	17	照明機材	配色	
	18	照明機材	光の当て方	
	19	照明機材	校内ライブでの配線を考える	
	20	録音	広い部屋での録音	
	21	録音	アンビエントマイク	
	22	録音	マイクの指向性	
	23	配信機材	配信に必要な機材	
	24	配信機材	ソフトウェア	
	25	配信機材	カメラと三脚	
	26	配信機材	スイッチャー	
27	テスト	プリントによるテスト		
28	振り返り			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	音楽分析概論Ⅰ		指導担当者名	今泉尊州		
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	筆記用具PC					
授業外学習の方法	プリントでの学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	楽典		楽譜		
	2	楽典		オタマジャクシ		
	3	楽典		ト音記号		
	4	楽典		ヘ音記号		
	5	楽典		音階		
	6	楽典		音階		
	7	楽典		コード		
	8	楽典		コード進行		
	9	楽典		コード進行		
	10	楽典		復習		
	11	楽典		復習		
	12	楽典		復習		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音楽分析概論Ⅰ			指導担当者名	今泉尊州
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義：○		演習：	実習：	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	筆記用具PC				
授業外学習の方法	プリントでの学習				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	楽典		振り返り	
	16	楽典		マイナー	
	17	楽典		メジャー	
	18	楽典		コードの構成	
	19	楽典		テンション	
	20	楽典		テンション	
	21	楽典		演奏上の注意	
	22	楽典		パッシングコード	
	23	楽典		復習	
	24	楽典		復習	
	25	楽典		復習	
	26	楽典		復習	
	27	期末試験			
28	振り返り				
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンス I			指導担当者名	脇屋 涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	学校内音響備品等					
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション		オリエンテーション		
	2	音響機材の構造		音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	3	音響機材のメンテナンス		端子等の役割・メンテナンスの方法		
	4	マイク1		マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	5	マイク2		マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	6	ケーブル		各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	7	楽器の構造1		楽器の構造		
	8	楽器の構造2		ピックアップ		
	9	楽器の構造3		アコースティック		
	10	楽器アンプ1		ギターアンプの取り扱い方法		
	11	楽器アンプ2		ベースアンプの取り扱い方法		
	12	舞台機構調整3級試験の復習		舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンスⅠ			指導担当者名	脇屋 涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:		演習:		実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	学校内音響備品等					
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	オリエンテーション		オリエンテーション		
	16	音響機材の構造		音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	17	音響機材のメンテナンス		端子等の役割・メンテナンスの方法		
	18	マイク1		マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	19	マイク2		マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	20	ケーブル		各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	21	楽器の構造1		楽器の構造		
	22	楽器の構造2		ピックアップ		
	23	楽器の構造3		アコースティック		
	24	楽器アンプ1		ギターアンプの取り扱い方法		
	25	楽器アンプ2		ベースアンプの取り扱い方法		
	26	舞台機構調整3級試験の復習		舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習		
	27	期末試験				
28	振り返り					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習 I		指導担当者名	脇屋 涼		
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	楽器					
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	セッションのルールと知識		授業のオリエンテーション		
	2	12小節のブルース進行		キーを変えコードと小説の感覚も鍛える。		
	3	8ビート、16ビート。		リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。		
	4	裏のリズム。ディスコビート。		IDM系リズムと曲の学習。		
	5	12/8ビート。シャッフル。		シャッフルの感覚と曲の学習		
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。		グループを出すための感覚の習得。		
	7	バウンス。ファンク。		スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。		
	8	ハーフタイムシャッフル。		ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。		
	9	ボサノバ。レゲエ。		ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。		
	10	サンバ。		速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。		
	11	ジャズ2ビート、4ビート。		ジャズスタンダードを学習する。		
	12	奇数ビート。		奇数曲と感覚を学習する。		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅰ			指導担当者名	脇屋 涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	楽器					
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	難易度の高い曲の完成。		課題曲の分析		
	16	難易度の高い曲の完成。		リズムを覚える		
	17	難易度の高い曲の完成。		コード進行を覚える		
	18	難易度の高い曲の完成。		メロディを覚える		
	19	難易度の高い曲の完成。		アドリブをみんなで回す		
	20	難易度の高い曲の完成。		合奏		
	21	難易度の高い曲の完成。		進行を覚える		
	22	難易度の高い曲の完成。		リズムを覚える		
	23	難易度の高い曲の完成。		コード進行を覚える		
	24	難易度の高い曲の完成。		メロディを覚える		
	25	難易度の高い曲の完成。		アドリブをみんなで回す		
	26	難易度の高い曲の完成。		合奏		
	27	期末試験				
	28	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合Ⅰ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイディアの出し方、プレスト、大量のアイディアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイディアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式			
授業外学習の方法	プリントによる学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画前期	1	オリエンテーション	この授業の趣旨・自己紹介	
	2	就職目標(なりたいセクション)及び音楽の理解	マインドマップの作成・好きな音楽と嫌いな音楽の理由	
	3	業界理解	現状の業界に求められる人材とはなにか	
	4	クリエイティブ志向を育てるメモの取り方	メモの取り方の資料を読み実践ノート・ペンタブレットPC・PC	
	5	制作の裏側・逆算力	動画・PCノート・ペン→まとめたものを発表	
	6	校内ライブの足りない部分・次回テーマ決め	付箋・ペン・紙	
	7	セクション・TODO出し	紙・ペン・ノート付箋・模造紙・PC	
	8	校内ライブ準備①	制作バック・ノート・PC	
	9	校内ライブ準備②スタッフミーティング	全体の確認	
	10	校内ライブの反省会	反省点・改善点・良かった点次回テーマ決め	
	11	実際のプロとの違い	どのような段取りをするか	
	12	企画書の立て方	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合Ⅰ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイディアの出し方、プレスト、大量のアイディアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイディアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	後期個人目標設定	修了・卒業公演までに自分が何をやるべきか目標設定PC・ノート・ペン		
	16	イベント業界に必要な映像知識	映像の最低限知らなくてはいけない知識		
	17	イベント企画を立てる	郡山に貢献できる音楽とは何か追及するPC・ノート・ペ		
	18	プレゼンの仕方	プレゼンとは何のためにするかを学ぶPC・ノート・ペン		
	19	課題プレゼン	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	20	企画内容の実現化	企画内容が実際にできるものなのかを検討・リポート		
	21	予算の立て方	リポートをもとに予算とはどのように考えられているのかを学ぶPC・ノート・ペン		
	22	校内ライブ・イベントライブの準備①	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクター		
	23	校内ライブ・イベントライブの準備②	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	24	イベント考察	ペン・付箋・ノート		
	25	業界知識	イベント業に必要な知識の補足		
	26	チーム形成	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
	27	期末試験			
28	振り返り				
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生		
授業方法	講義:	演習: ○		実習:	実技:
年間時間数	28 時間			週時間数	時間
学習到達目標	サーティファイコミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	コミュニケーション検定初級テキスト				
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明		
	2	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く		
	3	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する		
	4	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する		
	5	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる		
	6	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く		
	7	パート1コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する		
	8	パート2コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客応対、1-2電話応対		
	9	パート2コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性		
	10	パート2コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション		
	11	パート2コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応		
	12	パート2コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	180	時間	週時間数	時間
学習到達目標	・卒業生:2年間の集大成として学んだことを発揮する			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	ライブ企画制作1	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	ライブ企画制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	ライブ企画制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても	
	4		可視化していく	
	5	学科内シミュレーションライブ	学科内でプレゼンテーションを実施	
	6		学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く	
	7		・制作のポイント・展示計画・プレゼン能力・資料の見やすさなど	
	8	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、	
	9		また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	10	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施	
	11		・学科内の作品の見どころの紹介・一般来場者の対応	
	12		*学科内シフトにより登校	
	13	期末試験	展示終了後は撤収と作品保管をする口	
	14	振り返り		
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ			指導担当者名	就職担当職員	
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間	
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	SUCCESS					
授業外学習の方法	教科書復習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画前期	1	一般常識1		国語1漢字の読み書き		
	2	一般常識2		国語2対義語・類義語3同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3		国語4四字熟語5故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4		社会1日本史2世界史		
	5	一般常識5		社会3日本の地理4世界の地理		
	6	一般常識6		社会5民主政治6経済		
	7	小テスト		中学レベル小テスト		
	8	一般常識7		英語1英単語・英熟語2英文法13英文法2		
	9	一般常識8		英語4英文法35会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9		数学1重要基礎12重要基礎23式と計算		
	11	一般常識10		数学4方程式と不等式5図形と面積、体積6場合の数と確率		
	12	一般常識11		理科1物理・化学2生物・地学		
	13	一般常識12		文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト		一般常識総ざらい		
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ			指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間
学習到達目標	・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。 ・前期は、一般常識を強化 ・後期は、個別指導を強化				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	志望動機の作り方1	3-7業界、会社にあった動機作り		
	16	志望動機の作り方2	3-7(実践編)業界、会社にあった動機作り		
	17	制作書類1	3-8・3-8(実践編)、3-1～3-3(実践編)、3-6～3-6-2エントリーシート		
	18	制作書類2	3-8・3-8(実践編)、3-1～3-3(実践編)、3-6～3-6-2封筒の書き方、添え状		
	19	制作書類3	3-8・3-8(実践編)、3-1～3-3(実践編)、3-6～3-6-2その他の書類、履歴書		
	20	制作書類4	3-8・3-8(実践編)、3-1～3-3(実践編)、3-6～3-6-2履歴書の完成		
	21	就職試験のマナー1	5-2～5-3(実践編)入退室		
	22	就職試験のマナー2	5-2～5-3(実践編)面接試験対策1		
	23	就職試験のマナー3	5-2～5-3(実践編)面接試験対策2		
	24	個別指導1	書類添削、面接指導		
	25	個別指導2	書類添削、面接指導		
	26	個別指導3	書類添削、面接指導		
	27	個別指導4	書類添削、面接指導		
	28	個別指導5	書類添削、面接指導		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	14	期末試験	期末試験	
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間
学習到達目標	・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ゼミごとに異なる				
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。		
	16	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。		
	17	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。		
	18	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。		
	19	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。		
	20	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。		
	21	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。		
	22	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。		
	23	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。		
	24	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。		
	25	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。		
	26	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。		
	27	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り		
28	期末試験	期末試験			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論Ⅱ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間
学習到達目標	(前期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析 (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集				
授業外学習の方法	実際にもスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション	レコーディングを中心とした技術の理解と実際。		
	2	音の性質	音の3要素。dBと音圧レベルの理解と計算方法。両耳効果とステレオ		
	3	音響物理基礎1	音と音波		
	4	音響物理基礎2	音に関する物理量		
	5	音響物理基礎3	音の尺度		
	6	電気音響基礎1	電気基礎		
	7	電気音響基礎2	基本回路		
	8	電気音響基礎3	オーディオ回路		
	9	音響機器1	マイクの種類と作動原理		
	10	音響機器2	コンソールの種類と機能		
	11	音響機器3	記憶媒体の歴史		
	12	模擬試験1			
	13	期末試験			
	14	試験解答			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	サウンドレコーディング概論Ⅱ			指導担当者名	常勤	
実務経験	無					
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	56 時間			週時間数	2 時間	
学習到達目標	(前期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析 (後期)サウンドレコーディング技術認定試験に向けての問題集の勉強。プロの音とプロの機材を理解する。問題集の徹底的分析。模試を通しての自己分析					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	サウンドデコーディング概論技術概論。サウンドレコーディング技術概論過去問題集					
授業外学習の方法	実際にもスタジオでの機材を目で見て手で触って確認をする。					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	録音技術1		マイク収音:方法と種類		
	16	録音技術2		オーケストラの録音:クラシック音楽の録音の実際		
	17	録音技術3		リズムトラックのレコーディング		
	18	録音技術4		マルチ録音とトラックダウン／ミキシングダウン		
	19	次世代音響技術1		デジタル音響処理基礎		
	20	次世代音響技術2		デジタルによるマルチ再生		
	21	次世代音響技術3		スピーカーの設置		
	22	レジュメ提出		今までの内容の中で利害できなかった部分を抜擢しレジュメ作成		
	23	次世代音響技術4		サラウンド技術の理解と実際		
	24	音楽理論と楽器1		基本的な楽器に対する理解		
	25	音楽理論と楽器2		クラシック楽器		
	26	音楽理論と楽器3		ポップス用の楽器		
	27	期末試験				
28	振り返り					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅱ		指導担当者名	薄崇雄		
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間	
学習到達目標	“音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ。 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ”					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	テキスト：舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、舞台技術の共通基礎					
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画、TVライブ収録番組鑑賞					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	舞台技術者の音の聴き方		レジュメ		
	2	音の様々な現象		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)		
	3	ミキシング(エフェクター)		〃		
	4	ミキシング(エフェクター)		〃		
	5	マイクの特性		〃		
	6	ワンポイント録音方式		〃		
	7	舞台用語		〃		
	8	舞台構造、舞台図面		〃		
	9	劇場の音響		〃		
	10	音響プランの作成Ⅰ		セッティング図に沿った作成仕方		
	11	音響プランの作成Ⅱ		セッティング図に沿った作成仕方		
	12	作成プラン検証		プラン通りの仕込み実施		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響学概論Ⅱ			指導担当者名	薄崇雄
実務経験	有	コンサート業務・音響現場に50年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義：○		演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間			週時間数	1 時間
学習到達目標	“音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ。 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ”				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	テキスト:舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)、舞台技術の共通基礎				
授業外学習の方法	音に注意を払った音楽、映画、TVライブ収録番組鑑賞				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	楽器の基礎知識		舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション(3級テキスト)	
	16	EQの知識		〃	
	17	エフェクターの知識		〃	
	18	音響測定と聴感		〃	
	19	催し物の種類と音響		レジュメ	
	20	空間の知識		〃	
	21	ホール舞台図面		実際のホールの図面をダウンロード	
	22	音響プラン制作基礎		舞台技術の共通基礎	
	23	音響プラン制作		検証作業	
	24	後期試験			
	25	実際の催し物の音響プラン制作Ⅰ		セッティング図に沿った内容でできているのかを検証	
	26	実際の催し物の音響プラン制作Ⅱ		セッティング図に沿った内容でできているのかを検証	
	27	期末試験			
	28	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコンカメラATEM				
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	配信とは	配信とは？(配信の仕組み、必要な機材の説明)		
	2	配信の基本セティング1	カメラの設定		
	3	配信の基本セティング2	変換器の設定		
	4	配信の基本セティング3	スイッチャーの設定		
	5	OBSの設定	基本的な使い方を学ぶ		
	6	音楽配信のOBSの設定	音楽配信のためのOBSの設定を作成してみる		
	7	音響き材の基礎	マイク		
	8	音響き材の基礎	スピーカー		
	9	音響き材の基礎	みきささー		
	10	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	11	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	12	ゲーム大会の配信の基本セッティングを作ってみる	OBS設定、マイクの設定を習得する		
	13	期末試験	実技試験:配信オペレーション		
	14	振り返り	フィードバック、今後の改善点		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコンカメラATEM			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	15	前期振り返り		
	16	配信のためのプランニング	配信時間を考える	
	17	タイムコード	音声と映像を合わせる	
	18	配信企画	配信の企画を立てる	
	19	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる	
	20	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法	
	21	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信	
	22	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信	
	23	音楽以外の配信プラン	演劇での配信	
	24	卒業ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる	
	25	卒業ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる	
	26	卒業ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる	
27	期末試験			
28	振り返り			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義：		演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ProTools				
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習				
学期	ターム	項目		内容・準備資料等	
授業計画前期	1	面談			
	2	マイクの種類		ダイナミックマイクの使い方を知る	
	3	マイクの種類		コンデンサーマイクの使い方を知る	
	4	ドラム録音		マイキングを知る	
	5	ドラム録音		音の加工仕方を身に付ける	
	6	ギターベース録音		マイキングを知る	
	7	ギターベース録音		音の加工仕方を身に付ける	
	8	カホン録音		マイキングを知る	
	9	カホン録音		音の加工仕方を身に付ける	
	10	ピアノ録音		マイキングを知る	
	11	ピアノ録音		音の加工仕方を身に付ける	
	12	テスト対策1		前期の復習	
	13	期末試験			
	14	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ		指導担当者名	今泉尊州		
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ProTools					
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	Agt録音		マイキングを知る		
	16	Agt録音		音の加工仕方を身に付ける		
	17	Vo録音		マイキングを知る		
	18	Vo録音		音の加工仕方を身に付ける		
	19	ダイナミクス系エフェクター		コンプレッサーの使い方を理解する		
	20	ダイナミクス系エフェクター		EQの使い方を理解する		
	21	空間系エフェクター		リバーブの使い方を理解する		
	22	空間系エフェクター		ディレイの使い方を理解する		
	23	楽器解説		各楽器の名称と効果を理解する		
	24	楽器の取り扱い		ドラム取り扱い方を知る		
	25	楽器の取り扱い		ギターベースの取り扱い方を知る		
	26	テスト対策1		後期復習		
	27	期末試験				
28	振り返り					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	デジタル音源制作		指導担当者名	今泉尊州	
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年			
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義：		演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	楽器音響機材照明機材				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	作曲	曲を作ることは		
	2	1'30"	ワンコーラスの曲を作る		
	3	リズム隊	リズム隊の重要性と有用性		
	4	コード	コードの進行の効果		
	5	ベース	ベースの重要性		
	6	メロディ	メロディの音楽理論		
	7	機材	音響卓の構造		
	8	機材	音の流れ		
	9	機材	AUX		
	10	機材	スピーカーの構造		
	11	機材	アンプ		
	12	機材	インピーダンスの理解と実際の応用		
	13	期末試験			
	14	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	デジタル音源制作		指導担当者名	今泉尊州		
実務経験	有	ミュージシャンと楽曲製作経歴5年				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	作曲や音響機器など幅広く使用し、音楽を多角的にみる力をつける					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	楽器音響機材照明機材					
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	照明機材		照明機材の結線方法		
	16	照明機材		DMX		
	17	照明機材		配色		
	18	照明機材		光の当て方		
	19	照明機材		校内ライブでの配線を考える		
	20	録音		広い部屋での録音		
	21	録音		アンビエントマイク		
	22	録音		マイクの指向性		
	23	配信機材		配信に必要な機材		
	24	配信機材		ソフトウェア		
	25	配信機材		カメラと三脚		
	26	配信機材		スイッチャー		
27	テスト		プリントによるテスト			
28	振り返り					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習Ⅱ		指導担当者名	薄崇雄		
実務経験	有	音響会社及び公共ホール等で音響技術者として50年従事				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	“様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作”					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式					
授業外学習の方法	多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授 業 計 画 前 期	1	音響技術者の音の聴き方（PAと録音の違い）		PAスピーカー、モニタースピーカー		
	2	機材セッティング、エフェクター操作		調整卓、周辺機器		
	3	アナログミキサーの操作		調整卓（アナログ）		
	4	デジタルミキサーの操作		調整卓（デジタル）		
	5	EQの操作		調整卓（デジタル）、ProTools		
	6	エフェクターの操作		〃		
	7	PAシステムの調整		PAシステム一式		
	8	PAシステム総合操作		〃		
	9	PAシステム総合操作		〃		
	10	前期期末試験				
	11	マルチトラックミキシング素材入れ込み		ProTools		
	12	マルチトラックミキシング（音量）		〃		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習Ⅱ		指導担当者名	薄崇雄
実務経験	有	音響会社及び公共ホール等で音響技術者として50年従事		
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	“様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作”			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を 点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上 を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、 Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	ProTools、モニタースピーカーシステム一式、PAシステム一式			
授業外学習の方法	多チャンネルミキシングの音楽、TV番組、映画の鑑賞			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 画 後 期	15	マルチトラック荒ミキシング、試聴	ProTools	
	16	マルチトラックミキシング(HPF)	〃	
	17	マルチトラックミキシング(音量)	〃	
	18	マルチトラックミキシング(EQ)	〃	
	19	マルチトラックミキシング(エフェクター)	〃	
	20	マルチトラックミキシング(ミックスダウン)	〃	
	21	マルチトラックミキシング(ミックスダウン)	〃	
	22	マルチトラックミキシング(修正)	〃	
	23	マルチトラックミキシング(マスタリング)	〃	
	24	後期作品提出(CD提出)		
	25	作品ヒヤリング	みんなで聞いて評価共有	
	26	ミキシング成果発表	CD再生装置一式	
	27	期末試験		
28	振り返り			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンスⅡ			指導担当者名	脇屋涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	学校内音響備品等					
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション		オリエンテーション		
	2	音響機材の構造		音響ミキサーやアンプ、スピーカーの構造について		
	3	音響機材のメンテナンス		端子等の役割・メンテナンスの方法		
	4	マイク1		マイクの種類、構造について(ダイナミックマイク)		
	5	マイク2		マイクの種類、構造について(コンデンサーマイク)		
	6	ケーブル		各種ケーブルの違いやメンテナンス		
	7	楽器の構造1		楽器の構造		
	8	楽器の構造2		ピックアップ		
	9	楽器の構造3		アコースティック		
	10	楽器アンプ1		ギターアンプの取り扱い方法		
	11	楽器アンプ2		ベースアンプの取り扱い方法		
	12	舞台機構調整3級試験の復習		舞台機構調整3級、筆記・実技試験の復習		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	機材メンテナンスⅡ			指導担当者名	脇屋 涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	音響ミキサーやステージ機材、楽器の構造を知り分解構成してみる事で知識を深める。また、自らメンテナンスを行う事で機材の取り扱い方を知る。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	学校内音響備品等					
授業外学習の方法	音楽・音響の本を読んで自ら知識・技術を学んでいく事					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	マイクケーブルの作成1		マイクケーブルを実際に作成、修理作業を行う		
	16	マイクケーブルの作成2		マイクケーブル、その他フォン端子等のケーブル作成/修理		
	17	デジタル音響機材		デジタルミキサ概論		
	18	デジタル音響機材		デジタルミキサーとアナログミキサーの違いについて		
	19	デジタル機器とアナログ機器		デジタルとアナログの信号の流れについて		
	20	デジタルの規格		企画によるデータ伝送方式とケーブルの種類		
	21	DANTEの基礎1		今主流のデジタル企画、DANTEについて学ぼう		
	22	DANTEの基礎2		DANTEを利用しシステムを組む。		
	23	ドラム1		ドラムセットのメンテナンス		
	24	ドラム2		ドラムセットのメンテナンス		
	25	楽器ごとのチューニング		チューニングの方法、実際に鳴っている周波数の把握		
	26	照明機器1		照明機器の構造について		
	27	期末試験				
28	メンテナンス品展示会					
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ		指導担当者名	脇屋涼		
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義:		演習:		実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間	
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	楽器					
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画前期	1	セッションのルールと知識		授業のオリエンテーション		
	2	12小節のブルース進行		キーを変えコードと小節の感覚も鍛える。		
	3	8ビート、16ビート。		リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。		
	4	裏のリズム。ディスコビート。		IDM系リズムと曲の学習。		
	5	12/8ビート。シャッフル。		シャッフルの感覚と曲の学習		
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。		グループを出すための感覚の習得。		
	7	バウンス。ファンク。		スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。		
	8	ハーフタイムシャッフル。		ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。		
	9	ボサノバ。レゲエ。		ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。		
	10	サンバ。		速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。		
	11	ジャズ2ビート、4ビート。		ジャズスタンダードを学習する。		
	12	奇数ビート。		奇数曲と感覚を学習する。		
	13	期末試験				
	14	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ			指導担当者名	脇屋 涼	
実務経験	有	ライブハウス、楽器販売を行っているリバースウェイとの契約により、実務経験が5年以上の社員が担当				
開講時期	通年		対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：		演習：		実習：○	実技：
年間時間数	84 時間				週時間数	3 時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。					
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。					
使用教材	楽器					
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習					
学期	ターム	項目		内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	難易度の高い曲の完成。		課題曲の分析		
	16	難易度の高い曲の完成。		リズムを覚える		
	17	難易度の高い曲の完成。		コード進行を覚える		
	18	難易度の高い曲の完成。		メロディを覚える		
	19	難易度の高い曲の完成。		アドリブをみんなで回す		
	20	難易度の高い曲の完成。		合奏		
	21	難易度の高い曲の完成。		進行を覚える		
	22	難易度の高い曲の完成。		リズムを覚える		
	23	難易度の高い曲の完成。		コード進行を覚える		
	24	難易度の高い曲の完成。		メロディを覚える		
	25	難易度の高い曲の完成。		アドリブをみんなで回す		
	26	難易度の高い曲の完成。		合奏		
	27	期末試験				
	28	振り返り				
履修上の留意点						
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施						

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合Ⅱ		指導担当者名	パクスフン	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：	演習：	実習：○	実技：	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイディアの出し方、プレスト、大量のアイディアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイディアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。”				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション□	この授業の趣旨・自己紹介		
	2	就職目標(なりたいセクション)及び音楽の理解□	マインドマップの作成・好きな音楽と嫌いな音楽の理由		
	3	業界理解□	現状の業界に求められる人材とはなにか		
	4	クリエイティブ志向を育てるメモの取り方□	メモの取り方の資料を読み実践ノート・ペンタブレットPC・PC		
	5	制作の裏側・逆算力	動画・PCノート・ペン→まとめたものを発表		
	6	校内ライブの足りない部分・次回テーマ決め□	付箋・ペン・紙		
	7	セクション・TODO出し□	紙・ペン・ノート付箋・模造紙・PC		
	8	校内ライブ準備①□	制作バック・ノート・PC		
	9	校内ライブ準備②スタッフミーティング□	全体の確認		
	10	校内ライブの反省会□	反省点・改善点・良かった点次回テーマ決め		
	11	実際のプロとの違い□	どのような段取りをするか		
	12	企画書の立て方	ペライチ企画タイトル・テーマ・意図・演出内容		
	13	期末試験			
	14	振り返り			
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	音響・舞台・照明総合Ⅱ			指導担当者名	パクスフン
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間			週時間数	3 時間
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なテーマの立て方やアイディアの出し方、プレスト、大量のアイディアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。また実際にアイディアを出し校内ライブなどで反映、どのような効果があったかをみる。また将来の目標設定を個々で設定できるようにする。”				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	PC音響機材照明機材ペンノートタブレットPC映像配信機材一式				
授業外学習の方法	プリントによる学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	15	後期個人目標設定□	修了・卒業公演までに自分が何をやるべきか目標設定PC・ノート・ペン		
	16	イベント業界に必要な映像知識□	映像の最低限知らなくては行けない知識		
	17	イベント企画を立てる□	郡山に貢献できる音楽とは何か追及するPC・ノート・ペ		
	18	プレゼンの仕方□	プレゼンとは何のためにするかを学ぶPC・ノート・ペン		
	19	企画内容の実現化□	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	20	予算の立て方□	企画内容が実際にできるものなのかを検討・リポート		
	21	校内ライブ・イベントライブの準備①□	リポートをもとに予算とはどのように考えられているのかを学ぶPC・ノート・ペン		
	22	校内ライブ・イベントライブの準備②□	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクター		
	23	イベント考察□	プレゼンPC・ノート・ペン・プロジェクタ		
	24	業界知識□	ペン・付箋・ノート		
	25	チーム形成□	イベント業に必要な知識の補足		
	26	チーム形成□	コミュニケーションの取り方セクション・プレゼンチーム作り		
	27	期末試験			
28	振り返り				
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部翔子	
実務経験	無				
開講時期	前期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	28 時間		週時間数	時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ビジネス著作権検定ベーシックテキスト				
授業外学習の方法	テキストの復習等				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画前期	1	オリエンテーション/第1章著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的		
	2	第2章著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの		
	3	第3章著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者		
	4	第4章著作権の内容①	著作権の内容人格権と財産権、著作者人格権（公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性）		
	5	第4章著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権		
	6	第4章著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物		
	7	第5章著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護		
	8	第7章勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物		
	9	第7章勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係		
	10	第8章著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは		
	11	第9章勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害		
	12	第10章著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権		
	13	検定対策	模擬試験		
	14	期末試験	検定本番		
履修上の留意点					
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	180 時間		週時間数	180 時間
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
履修上の留意点				
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				